

登録コード	L2620300		開講年度	2026			
担当教員	速水 香織			副担当			
授業科目	日本文学史						
英文授業名	Cultural Anthropology						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・3時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前追加対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力				異なる時代・文化を理解しようと努め、文献を中心とする情報から重要な内容を把握することができる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降追加対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				異なる時代・文化を理解しようと努め、文献を中心とする情報から重要な内容を把握し、自ら文章化することができる。		
授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	古典作品は、時代の変遷に伴って様々に変容し、新たな意味や解釈を与えられながら受け継がれてきました。本講義では、作品の中で語られる逸話、また作品そのものを取上げ、その享受のありようや変容のさまを見てゆきます。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：受容と変容―浦島伝説 『日本書紀』『万葉集』の逸話 第3回：受容と変容―浦島伝説 浦島伝説の浸透と御伽草子『浦島太郎』 第4回：受容と変容―浦島伝説 教科書に載った『浦島太郎』 第5回：受容と変容―菟原処女の伝説 『万葉集』に詠われた悲恋の娘 第6回：受容と変容―菟原処女の伝説 『大和物語』から謡曲『求塚』へ 第7回：受容と変容―菟原処女の伝説 江戸時代から近現代に受け継がれる菟原処女 第8回：受容と変容―古典作品の視覚化 ―人形劇「求塚」― 第9回：受容と変容―古典作品の視覚化 ―道成寺伝説に触れる― 第10回：古典作品への評価―『源氏物語』受容の一場面 『源氏物語』と『源氏物語』注釈 第11回：古典作品への評価―『源氏物語』受容の一場面 『源氏物語』を題材とした能楽 第12回：古典作品への評価―『源氏物語』受容の一場面 江戸時代に読まれた『源氏物語』 第13回：古典作品への評価―『俗源氏』・『好色一代男』と井原西鶴への評価 第14回：古典作品への評価―浮世草子の流行と井原西鶴への評価 第15回：まとめ なお、13～15回のいずれかにおいて、授業アンケートを実施する。						
成績評価の方法	毎回の講義で提出するコメント（60%）、期末レポート（40%）によって評価します。						
成績評価の基準	コメント：授業内容への言及・質問の内容によって授業の理解度や受講態度を判断します。 授業中の内容を自己の知識や知見と有機的に結び付け、かつ自身の学修に基づく優れた内容を述べることでできていれば「卓越している」、授業に関し具体的に優れた内容を述べることでできていれば「かなり上にある」、授業中の内容に関し具体的な内容を述べることでできていれば「やや上にある」、授業中の内容に触れた見解を述べることでできていれば「その水準にある」と評価します。 レポート：講義内容を把握・理解した上で、日本文学史に関する明確な自己の知見・見解を持つことを、成績評価の水準とします。これが卓越していれば秀、かなり上になれば優、やや上になれば良、水準には達していると認められれば可とします。						
事前事後学習の内容	毎回の講義において様々な作品を紹介しますが、取り上げる作品は事前に連絡します。その作品等についてあらかじめ目を通すなど情報を得ておくことを事前学習とします。 また授業後、自己の興味関心に沿って積極的に作品およびその背景の理解に努めることを事後学習とします。						
履修上の注意	毎回の講義で提出いただくコメントの内容を重視します。ただ漫然と講義を聞くだけではない、積極的な受講を望みます。 なお、授業中の私語その他迷惑行為は一切認めません。他の受講生の妨げになると教員が判断した場合は退室を命じ、単位認定を行わない場合があります。						
質問、相談への対応	木曜日12:10～13:00をオフィスアワーとします。面談を希望の場合は、事前にメール等で連絡をお願いします。 メールアドレスはkhayami@shinshu-u.ac.jpです。						
教科書	講義中に適宜プリントを配布します。						
参考書	『新版 日本文学大年表』（市古貞次、久保田淳編、おうふう2002年） 購入の必要はありません。 その他、講義中に適宜指示します。						